ふるさとへぐり再発見

古い石室　宮山塚古墳

6

椿井集落を東へ登りついた所に春日神社があり、その西側に小山があります。

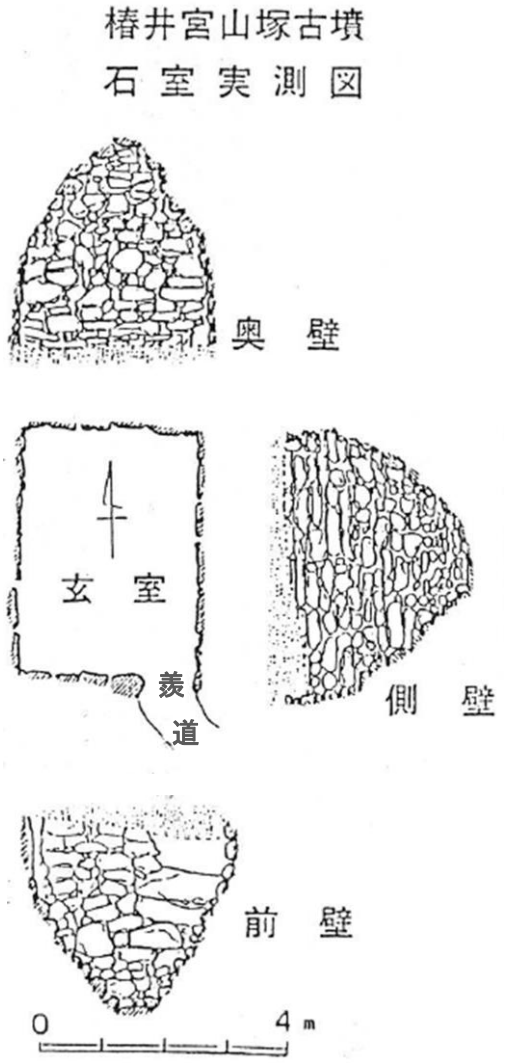
これが、椿井宮山塚古墳で、平群で最も古く造られた古墳です。

矢田丘陵より南西に延びる屋根の先端部分を利用して築造されています。

現在は少し削られて楕円形になっていますが、元は直径約20m、高さ3mの円墳です。

この古墳の特徴は、主体部の横穴式石室です。

石室は南に開口しており、遺体を納める部分の玄室は奥行4．1m、幅は3mで、高さは現状で3mあり、さらに0．5mはありそうです。玄室への通路にあたる部分の羨道は幅1m、長さは0．5mあります。



石室は小さな石材をドーム状に積み上げており、天井石と呼べるものはありません。これは、穹窿状の石積みと呼ばれるもので、北九州の初期の石室の特徴をもっています。近畿地方では珍しいもので、古式の横穴式石室として著名なもののひとつです。

玄室の床面付近では四角がはっきりしていますが、天井に近づくにつれて角が取れ、最上部では丸くなっています。

古くより開口しており、出土遺物は知られていませんが、石室の形態により五世紀の後半頃の築造といわれています。

この頃の横穴式石室でこれだけ保存状態の良いものは他にはありません。

現在、石室の積みがゆるんでおり危険なため、所有者の乾さんが入口の鍵を管理しておられます。